

「エネルギー・環境に関する選択肢」に関する
意見・要望

平成24年8月

四国経済連合会

「エネルギー・環境に関する選択肢」に関する意見・要望

現在、国では「革新的エネルギー・環境戦略」の策定に向け、今年6月末に取りまとめた「エネルギー・環境に関する選択肢」が国民的議論に付されているところである。

当会は、これについて、わが国の産業と生活を守る観点から、以下のとおり意見・要望を申し上げたい。

記

1. 産業の国外流出や雇用の喪失など、国民経済に与える影響を十分に踏まえた議論が不可欠

エネルギーは産業や生活を根本的に支えるものであり、低廉で安定した電力供給は不可欠な要素である。しかし、今回提示された選択肢は、いずれも電気料金が高騰し、経済成長にマイナス影響を及ぼすとともに、省エネや再生可能エネルギーの大幅な拡充は実現性の面で課題があり、電力不足を招きかねない等、産業の国外流出や雇用の喪失に繋がるのが強く懸念される。こうした産業や生活に与える影響を十分に踏まえた議論が為されるべきである。

2. 化石燃料、原子力、再生可能エネルギーのベストミックスを追求すべき

エネルギー選択にあたっては、こうした経済面での影響に加え、エネルギー安全保障、環境面への対応、実現可能性といった総合的な観点から、議論されなければならない。エネルギー資源に乏しいわが国においては、経済的・安定的な化石燃料の調達、安全性の確保を大前提とした原子力の活用、コスト低減の仕組みを併せもった再生可能エネルギーの導入など、わが国の将来を見据え、多様な選択肢を持ったエネルギー戦略が追求されるべきである。

3. 多角的な観点からの議論を尽くすべき

国は、8月中を目途として「革新的エネルギー・環境戦略」の策定を目指しているが、わが国におけるエネルギー戦略の重要性に鑑み、以上のような多角的な観点から国民的な議論を尽くす必要がある。

以 上